

昔はこんなに汚かった！ 「日本列島クリーン大作戦」の成果とは

今でこそ、「日本はどこに行ってもきれい」と海外からも称賛されていますが、
今から40数年前の日本は「ポイ捨て」が多く、「街が汚い」と行政の方々が頭を悩ませるほどでした。

そこで、「小さな親切」運動本部が全国の地域組織、会員に参加を呼びかけ、
1983年に「日本列島クリーン大作戦」をスタート。活動当初を写真で振り返り、
清掃活動の成果や継続の意義を考えてみました。



**とにかく多い！
1回でこの量を回収**

活動当初は、1回のクリーン大作戦で収集したごみの量が「トラック〇台分」との報告がよくありました。特に多かったのは、たばこの吸い殻や空き缶。街にこんなにゴミが溢れていたことに驚きます。



**こんなものまで
捨てられていた！**

河川清掃をすると、投げ捨てられたバイクや自転車が何台も引き上げられ、空き地などにはタイヤや冷蔵庫、テレビといった家電まで捨てられていました。当時のごみ拾いは危険と隣り合わせ、そして体力勝負でした。



運動本部・山橋由貴子専務理事が語る
**“捨てない心”の
継続が何より大切**

「登山が趣味」というある理事が話してくれました。これまできれいだった山道が、急にごみだらけになってびっくりしたことがあったそうです。道ですれ違った人に、声をかけてみると、山道の清掃を10年間続けられていたご老人がお亡くなりになり、それから一つごみが捨てられるともう、次から次へと増えていったのだと。これを聞いて、きれいな状態を維持するのが何より難しく、大切なのだと気づきました。

クリーン大作戦が始まったのは、私が入職して2年目のとき。当時と比べ、最近は活動に参加しても、ごみが少なく「拍子抜けした」との声も聞かれるほど、日本の街はどこもきれいになりました。実際私も、こんなにきれいなのに清掃する意味はあるのかと思ったことも。

しかし、一人ひとりの心の中に、「ごみを捨てない、街をきれいにしよう」という心を育てることが、私たち「小さな親切」運動のクリーン大作戦の原点。

40数年にわたって、全国各地で活動してきた私たちは、この「ごみを捨てない美しい心づくり」に寄与してきた自負があります。これからも、街がきれいになったことに感謝し、これを維持する大切さを伝えながら活動を続けていきます。